

01 WED
02 THU
03 FRI
04 SAT
05 SUN ■入学式
06 MON ■オリエンテーションI
07 TUE ■オリエンテーションII(13日まで) ■阿蘇研修(11日まで)
08 WED ■授業開始
09 THU
10 FRI
11 SAT
12 SUN
13 MON
14 TUE
15 WED
16 THU
17 FRI
18 SAT
19 SUN
20 MON
21 TUE
22 WED
23 THU
24 FRI
25 SAT
26 SUN
27 MON
28 TUE
29 WED 昭和の日
30

5 MAY

01 FRI
02 SAT
03 SUN 憲法記念日
04 MON みどりの日
05 TUE こどもの日
06 WED 振替休日
07 THU
08 FRI ■学生総会
09 SAT
10 SUN
11 MON
12 TUE
13 WED
14 THU
15 FRI
16 SAT ■第1回キャンパス相談会
17 SUN
18 MON
19 TUE
20 WED
21 THU
22 FRI
23 SAT ■遠歩会
24 SUN
25 MON
26 TUE
27 WED
28 THU
29 FRI
30 SAT
31 SUN

6 JUNE

01 MON
02 TUE
03 WED
04 THU
05 FRI
06 SAT
07 SUN
08 MON
09 TUE
10 WED
11 THU
12 FRI ■美井展(発表部門)
13 SAT ■第2回キャンパス相談会
14 SUN
15 MON
16 TUE
17 WED
18 THU
19 FRI
20 SAT ■美井展(展示部門)
21 SUN
22 MON
23 TUE
24 WED
25 THU
26 FRI
27 SAT
28 SUN
29 MON
30 TUE

SOJO

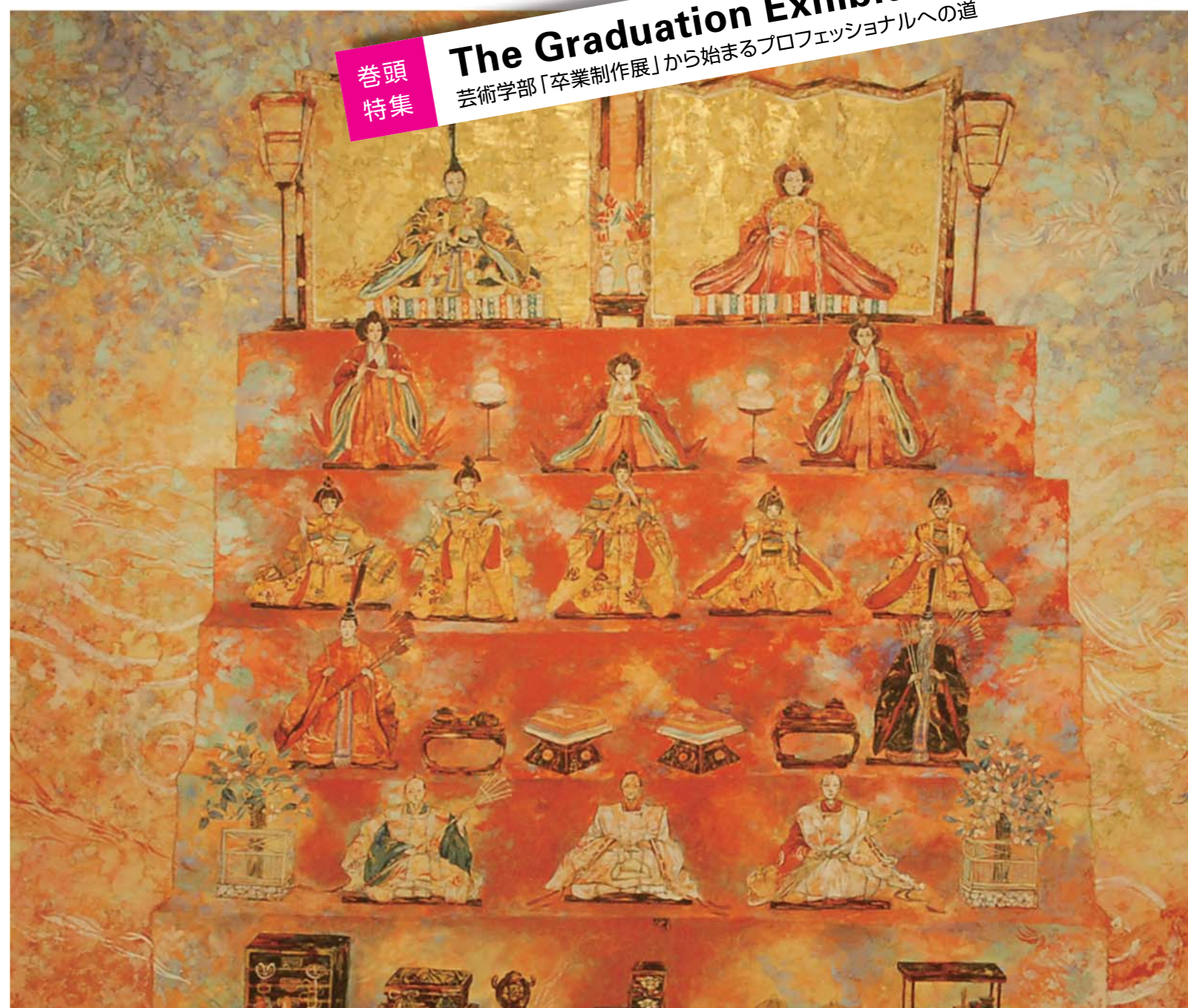
兵風
崇城大学 ● 広報誌
かくふう

VOL.51
Spring
2009

UNIVERSITY INFORMATION MAGAZINE

巻頭
特集

The Graduation Exhibition of Art
芸術学部「卒業制作展」から始まるプロフェッショナルへの道



2009 OPEN CAMPUS



オープンキャンパスに
見て 聞いて

体験する

崇城大学生という自分の未来!!

体験実験や研究室探索、
教員や在学生への質問タイムなど、
崇城がどんな大学なのか、
しっかりわかるイベントがいっぱい。
入試攻略アドバイスもあるオープンキャンパスで、
自分の未来をイメージしよう!!

崇城大学 SOJO UNIVERSITY

- 工 学 部 機械工学科/ナノサイエンス学科/エコデザイン学科
建築学科/宇宙航空システム工学科<総合課程>
<専修課程航空整備士養成コース><専修課程パイロット養成コース>
- 芸 術 学 部 美術学科/デザイン学科
- 情 報 学 部 電子情報ネットワーク学科/ソフトウェアサイエンス学科/
コンピュータシステムテクノロジー学科
※2009年4月より情報学科へ改組
- 生物生命学部 応用微生物工学科/応用生命科学科
- 薬 学 部 薬学科
- 大学院工学研究科
<博士後期課程>エネルギーエレクトロニクス専攻/機械システム工学専攻/
応用化学専攻/環境社会工学専攻/応用微生物工学専攻/応用生命科学専攻/
<修士課程>電気・電子工学専攻/機械工学専攻/応用化学専攻/
建設システム開発工学専攻/宇宙航空システム工学専攻/
応用微生物工学専攻/応用生命科学専攻
- 大学院芸術研究科
<博士後期課程>芸術学専攻
<修士課程>美術専攻/デザイン専攻

SOJO 検索 <http://www.sojo-u.ac.jp/>

〒860-0082 熊本市池田4-22-1
TEL.096-326-3111(代表) FAX.096-326-3000
広報誌「かくふう」第51号 発行/2009年3月
崇城大学広報誌編集委員会・広報課 (koho@ofc.sojo-u.ac.jp)

<開催日時>
第2回●8月01日[土] 10:00~16:00

第3回●8月23日[日] 10:00~16:00

★キャンパス相談会開催中★詳細は本学ホームページへ

お問合せは入試課まで
TEL.096-326-6810
nyushi@ofc.sojo-u.ac.jp

01 SPECIAL ARTICLE

The Graduation Exhibition of Art

芸術学部「卒業制作展」から始まるプロフェッショナルへの道

07 A LABORATORY REVIEW

工学部 ナノサイエンス学科 新海研究室
工学部 宇宙航空システム工学科 猿渡研究室

09 INTERNATIONAL EXCHANGES

国際交流だより

10 THE HISTORY OF A PROFESSOR

芸術学部 美術学科 / 大学院 芸術研究科 楠元香代子 教授

11 NEWS

建築学科の村田助教に論文賞
くまもと産業ビジネスフェアに出展
ナノサイエンス研究交流講演会を開催
文科省科研費新学術領域研究がスタート
応用生命科学科の松本教授が熊日新聞に毎週連載中

12 SOJO as it is

ものづくりコンペティション2007最優秀賞企画を実製作
ミス&ミスター(イケメン)SOJOが井芹祭で決定!!

13 TOPICS

美術学科「学生作品展」を開催
デザイン学科生が多数入賞
エコデザイン学科生が炭焼き体験
情報学部2008年度4年次生が熊本産学官技術交流会で研究発表
軟式野球部が全日本と西日本の両選手権大会に連続出場
九州ライフル射撃選手権大会で射撃部が大躍進
九州大学リーグ2部へサッカー部が昇格
機械設計技術者試験3級に6名の機械工学科生が合格

15 ALUMNI

株式会社NTTネオメイト 新村日出海さん
西日本システム建設株式会社 高野涼平さん

16 CLUBS' ACTIVITY

Djembe 部「DJAMANADIA」
ハンドボール部
沖縄県人会「エイサー」

17 THIS IS MY FAVORITE BOOK

心響の一冊

18 LOCAL AREA COOPERATION

地域との連携

SOJO COLLEGE INFORMATION

崇城大学専門学校からのお知らせ



芸術学部「卒業制作展」から始まる プロフェッショナルへの道

この3月3日から8日までの1週間、
熊本県立美術館本館において、
「展望」をテーマとする芸術学部卒業制作展および
大学院芸術研究科修士制作展が開催された。
崇城大学で創作に取り組み続けた日々から彼等は今なにを見つめ、
これからどのような道を歩んでいこうとしているのか。
美術とデザイン の意欲的な作品を通じて、
プロフェッショナルへの道につながる
芸術学部の教育を展望してみよう。

The Graduation Exhibition of Art



■表紙アートは大学院修士課程美術専攻日本画コース2008年度1年次生の管林更紗(かんばやしさらさ)さんの「ひな祭り」。淡い色彩が印象的なこの作品は管林さんが学部3年次、日展出品のために制作したF150号という大作。日本の歴史が大好きだったことから「日本伝統の歳時記を日本の画材で描きたい」と考え、日本画を志した管林さんが、この作品の題材に選んだひな飾りは、祖母が初節句の時に買ってくれた思い出深いもの。「絵を描くために3月3日過ぎてもずっと飾っていたから……婚期を逃したらどうしよう」と笑顔でコメントしてくれた管林さん(笑)。現在は甲冑や武者のぼりなど、男子の節句飾りをモチーフにした創作に取り組みしており「アートとして完成しているモチーフを描くことの難しさに直面しつつ、オリジナリティを追求している」とのことでした。

The Graduation Exhibition of Art

芸術学部「卒業制作展」から始まる
プロフェッショナルへの道

Chapter | 1 | Road to ARTIST

自身の内面を探り続ける アーティスト であるために。

森田一成の彫刻《種》がもつ圧倒的な生命感。二木優子の日本画《硫黄島の椿》が語りかける静謐な温かさ。興梧守秋の洋画《空の影に映る》から感じる研ぎ澄まされた美意識。この3作品は各自の創作の集大成であり、何らかの共通性を見つけようとする行為は無意味と思われる。しかし、本当にそうだろうか。もう一度、各作品に向きあってみよう。

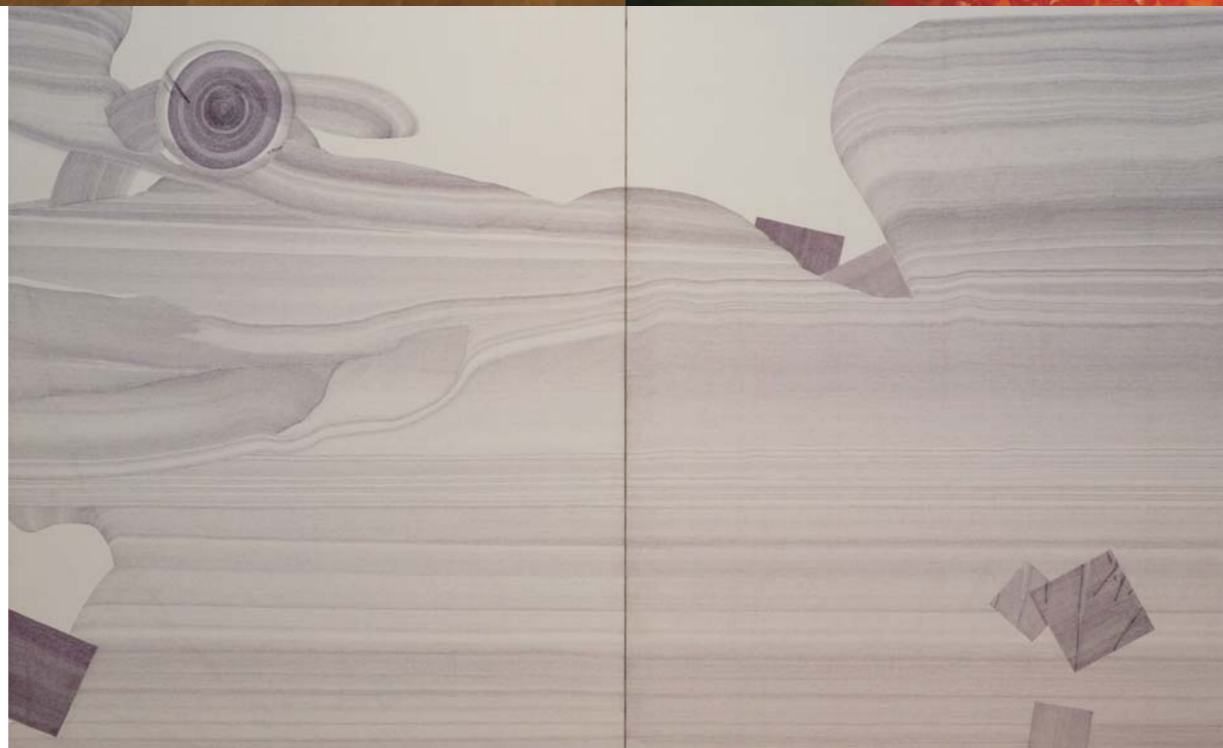
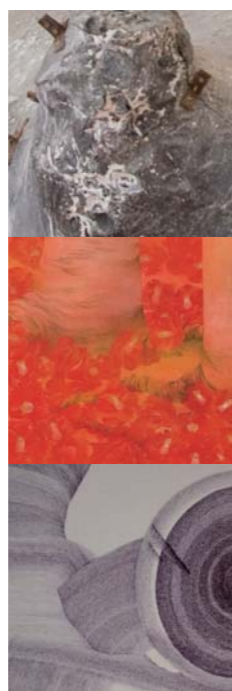
森田は美術学科と修士課程の6年間を通じて模索し続けた「美とは何か」という自問への一つの答えとして「生命の根源である種(たね)を魂の塊(たましいのかたまり)として表現した」。この高さ3メートルをこえる大作を「抽象に見えるが自分自身は抽象とは思っていない」と言う。

二木は鹿児島県・硫黄島での野外写生実習で絵を描くしかないという状況に追い込まれ、その苦しさの先にあった喜びこそ創作の原点であると自覚。「その想いを椿の花びら一枚それぞれに託して描いた」と言う。興梧の作品は油性ボールペンで描いた線の集合体であり、表現しているのは「時間の蓄積と空気の振動」。しかし本人が「自己中心的な自己表現」と言うように、鑑賞者の視線は「敢えて無視している」とのこと。

やはり、この3作品から何らかの共通性を見つけようとする行為は無意味なのだろうか。また、この『岳風』は学生たちの活動を伝える広報誌であり、本誌の視点による美術評論を行うつもりもない。しかし、この3名が自分自身の内面を探り続け、その苦悩をバネにして、この3作品を生み出したのは事実である。そして、そのことは、この芸術学部卒業制作展・大学院芸術研究科修了制作展で作品を発表した他の美術学科生や大学院生も同じである。

なお、この春から森田は博士後期課程へ、二木と興梧は修士課程へ進み、各々がめざすべきプロフェッショナル像を模索しながら、「自分自身の内面を探る」日々を再スタートしていく。このことを3者3作品の共通性とするかどうかはさておき、「創作意欲を湧き立たせ続ける」ことこそ、芸術学部美術教育の本質であることを特記しておきたい。

※本稿は3名3作品に込められた「プロフェッショナルになることへの意志」を尊重、「さん」等の呼称を略します。



Kazunari MORITA

生命感を追求した作品《種》は
彫刻家として生きるための第一歩

森田一成

大学院 修士課程
美術専攻(彫刻)2009年3月修了
富山県 井波高校出身

●この修士課程・美術専攻(彫刻)修了作品《種》のテーマは「生命感と実在感の追求」であり、大地から芽を出す種の生命力と人間の生きる姿を組み合せ塊で表現しました。「美しさとは何か」と疑問を持ち考えた一つの結果が本作品です。しかし「決して満足はしていません」。博士後期課程では再びスタートラインに立ち、更なる研究と創作に没頭していきたいです。めざしているのは「彫刻家として生きる」ことです。



Yuki FUTATSUKI

生涯ずっと日本画を描き続けることへ
この《硫黄島の椿》が転機になりそう

二木優子

芸術学部 美術学科
日本画コース2009年3月卒業
宮崎県 宮崎日本大学高校出身

●この卒業作品は“豊かな自然の他にはない”離島を訪れ、過酷な状況下でひたすら描いたスケッチがベースになっています。自分としては地に落ちた椿の花弁から「朽ちる寸前のはかない美しさ」を表現したつもりですが、「気持ち技術に追いついていない」というのが自己評価。本当は椿の赤と苔の緑に、色彩ではない“世界感としてのコントラスト”をもっとつけたかったのです。その悔しさをもって進む修士課程では、これまで避けていた公募展にもチャレンジし、生涯ずっと日本画を描き続けるための土台を築いておきたいと思っています。



Moriaki KOROKI

この《空の影に映る》を描いたことで
美術科教員になる意志が強まった

興梧守秋

芸術学部 美術学科
洋画コース2009年3月卒業
宮崎県 宮崎北高校出身

●「洋画といえば油絵」ですが、僕が使う画材は油性のボールペン。それはモノクロームによる心象風景の創作を模索して辿り着いた技法なのですが、そんなアウトサイダーで“自己中心的な自己表現”を認めてくださった洋画コースの先生方へ、今は感謝の気持ちが尽きません。そのことを含め、春から進む修士課程では「高校の美術科教員になること」を念頭に、アウトサイダーアートの領域を突き進んでいきたい。美術の幅広い楽しさを伝えることはもちろん、教育の現場には、そういう“非・主流”な道を歩んできた者の感覚も必要はなはずですから。

中田奈々美の《ASO CUBE》。松崎優子の《入浴する母子像のエピソードをもとにした朗読劇》。これらはデザイン学科の卒業作品である。しかし注目すべきは、その表現手法のバラエティさではないと思われる。この 作品を本稿に推したデザイン学科の教員たちは何を伝えたいのか。 制作目的から、デザイン学科の教育の本質を探ってみよう。

中田の《ASO CUBE》は一見、光源を組み込んだ立体オブジェアートのようなのだが、その制作目的は「阿蘇に生育する絶滅危惧植物の分布変遷を約30年間の時の流れの中で可視化すること」で



The Graduation Exhibition of Art

芸術学部「卒業制作展」から始まるプロフェッショナルへの道

社会へメッセージを発するクリエイターであるために。

あり、綿密な調査やデータ収集なしでは成立しないダイアグラムである。

《入浴する母子像のエピソードをもとにした朗読劇》を上演した松崎は、水俣病を表象するものとして一時期メディアに多用されていたユージン・スミスの写真作品「入浴する母子像」が、被写体である少女の死を機に公開されなくなった経緯調査から知見した「家族の想いを尊重したスミス夫人および関係者」へのオマージュが制作目的だったと言う。

そう、この3作品はすべて「調査」がベースになっており、それは社会にメッセージを発することこそクリエイターの使命であるとし、「クリエイティブのプロセス」を重視した教育のあらわれではないだろうか。

そのような教育を受けた彼女らが、同様のプロセスを踏んだ作品を発表した他のデザイン学科生らが、この卒業制作展を経て進む道はさまざまだが、その多くが「メッセージのプロフェッショナル」になってくれることに期待しよう。この社会が「より良くなる」ことへの期待と共に――。

※本稿は3名3作品に込められた「プロフェッショナルになることへの意志」を尊重、「さん」等の呼称を略します。



Nanami NAKATA



可視化の意義深さをあらためて認識するに至った植物生態立体ダイアグラム《ASO CUBE》の制作

中田奈々美

芸術学部 デザイン学科 2009年3月卒業
熊本県 第二高校出身

●森野研究室が取り組み続けてきた「阿蘇の響彩(いろ)プロジェクト」に興味があり、「私も阿蘇に関わりたい!!」と思ったのが植物生態の立体ダイアグラム《ASO CUBE》を制作したきっかけ。但し絶滅危惧種の生態系等を可視化するには調査・分析が必要不可欠で、それに約半年を費やしました。この過程から私があらためて認識したのは「この調査を学術論文にしても一般の方々の目にはとどかない」という考えをベースにした可視化(すなわちデザイン化)することの意義深さ。クリエイターとして、将来的にもこういう仕事をしていきたいですね。



Yuko MATSUZAKI

《入浴する母子像のエピソードをもとにした朗読劇》は今後もブラッシュアップを重ねて上演を続けたい

松崎優子

芸術学部 デザイン学科 2009年3月卒業
長崎県 嶋滝高校出身

●私の卒業作品《入浴する母子像のエピソードをもとにした朗読劇》にはさまざまなオマージュを込めていますが、上演を実際に観ていただかない限り「?」だと思います。なので「岳風で紹介される」と聞いて戸惑ったのも事実ですが、こういう演劇やオイリュミー(体感表現)もデザイン学科の領域であることを知ってもらうには好例なのかもしれません。但し、それにはしっかりしたメッセージが必要であり、私が最終的に伝えたいのは「作品(芸術)と人と時間(歴史)の関係性」。この1年は研究生として大学に残り、今回のテーマをさらに探究していく予定です。



2008年度 公募展 受賞者

※全員が芸術学部または大学院の2008年度生(敬称略)
※カッコ内略例は下記参照・数字は2008年度の年次
(博) 大学院 博士後期課程芸術学専攻
(修) 大学院 修士課程美術専攻
(美) 芸術学部美術学科 (デ) 芸術学部デザイン学科

- 鹿児島県 泉美展
- 大賞/田原迫 華(博2)鹿児島県・鹿児島大学出身
- 富山県 泉美展
- 大賞/森田 一成(修2)富山県・井波高校出身
- 熊日女性絵画展
- 奨励賞一席
- 河喜多 祐佳(美2)熊本県・ルーテル学院高校出身
- 奨励賞二席
- 花立 和佳(美3)熊本県・ルーテル学院高校出身
- 奨励賞七席
- 武田 理香(美3)熊本県・熊本農業高校出身
- 奨励賞九席
- 増岡 迪子(美3)大検合格者
- 入選/佐藤 博美(美2)熊本県・第二高校出身
- 藤里 真由(美1)熊本県・第二高校出身

大牟田美術展

- 大牟田美術協会賞
- 森 梓(美3)福岡県・大牟田北高校出身
- ビエンナーレ KUMAMOTO IV
- 入選/東 耕平(博1)熊本県・熊本工業高校出身
- 森田 一成(修2)富山県・井波高校出身
- 島内 美佳(美3)熊本県・第二高校出身
- 諸井 謙司(美3)佐賀県・佐賀北高校出身

熊本県 泉美展

- 大賞/彫刻
- 森田 一成(修2)富山県・井波高校出身
- 協会賞/日本画
- 西田 真由美(修1)熊本県・鹿本高校出身
- 熊本市賞/日本画
- 緒方 裕和(修1)熊本県・文徳高校出身
- 初入選/日本画
- 徳留 永子(博1)鹿児島県・松陽高校出身
- 入選/日本画
- 川口 恵(修2)熊本県・熊本北高校出身
- 県美術家連盟賞/彫刻
- 東 耕平(博1)熊本県・熊本工業高校出身
- 奨励賞/彫刻
- 廣底 友里恵(美4)鹿児島県・鶴丸高校出身
- 九州青年美術公募展
- 河北記念賞/武田 理香(美3)熊本県・熊本農業高校出身
- 不知火美術館マナブ間部賞展
- 入選/長嶺めぐみ(美3)宮崎県・宮崎日本大学高校出身
- 白日展
- 入選/藤山 木綿香(修1)熊本県・南関高校出身
- 小野 大輔(修1)長崎県・諫早東高校出身
- 南阿蘇えほんのくに賞絵本コンクール
- えほんのくに魔法賞
- 高野 結衣(美2)熊本県・必由館高校出身
- 日展
- 特 選/川畑 浩徳(博3)鹿児島県・鹿児島大学出身
- 入 選/一木 志里(博3)熊本県・玉名高校出身
- 野添 浩一(博3)鹿児島県・鹿児島大学出身
- 田原迫 華(博2)鹿児島県・鹿児島大学出身
- 吳 青峰(博1)東京都・東京芸科大学大学院出身
- 坂本 進(博1)熊本県・熊本大学大学院出身
- 東 耕平(博1)熊本県・熊本工業高校出身
- 森田 一成(修2)富山県・井波高校出身
- 杉浦 慎一(修1)熊本県・湧心館高校出身
- 廣底 友里恵(美4)鹿児島県・鶴丸高校出身
- 有賀 祥(美3)北海道・札幌北高校出身
- 島内 美佳(美3)熊本県・第二高校出身
- 初入選/川口 恵(修2)熊本県・熊本北高校出身
- 緒方 裕和(修1)熊本県・文徳高校出身
- 西田 真由美(修1)熊本県・鹿本高校出身
- 管林 更紗(修1)熊本県・必由館高校出身
- 福葉 未来(美3)福岡県・太宰府高校出身
- 松藤 亜矢子(美3)福岡県・太宰府高校出身
- 諸井 謙司(美3)佐賀県・佐賀北高校出身
- 西村 佳奈子(研究生)佐賀県・佐賀大学出身

日展福岡展

- 西日本新聞社賞/森田 一成(修2)富山県・井波高校出身
- 昭和会展
- 入選/田原迫 華(博2)鹿児島県・鹿児島大学出身
- 森田 一成(修2)富山県・井波高校出身
- 西村 佳奈子(研究生)佐賀県・佐賀大学出身

日本彫刻会展

- 新人賞/東 耕平(博1)熊本県・熊本工業高校出身
- 森田 一成(修2)富山県・井波高校出身
- 入選/有賀 祥(美3)北海道・札幌北高校出身
- 福岡県美術展
- 県文化団体連合会賞受賞
- 西村 佳奈子(研究生)佐賀県・佐賀大学出身
- 入選/松藤 亜矢子(美3)福岡県・太宰府高校出身
- 年賀状で「くまもとを贈ろう」キャンペーン
- 優秀賞/森野 志織(デ2)熊本県・宇土高校出身
- 準優秀賞/有馬 正裕(デ2)熊本県・熊本国府高校出身
- 吉井 奈津美(デ2)熊本県・第二高校出身
- 入賞/黒木 真由美(デ3)宮崎県・延岡西高校出身
- 山下 久美(デ3)長崎県・創成館高校出身
- 太原 雄嗣(デ2)熊本県・御船高校出身
- 梅田 和(デ2)佐賀県・佐賀清和高校出身
- 都 大輔(デ2)大分県・大分東高校出身

FUKUDAポスター大賞2008

- 一般部門入選
- 中西 円香(デ3)福岡県・第一経済大学付属高校出身
- 熊日デザイン賞2008
- ポスター部門3席
- 古賀 憲一(デ3)福岡県・大牟田北高校出身
- 来民うちわ学生デザイン展
- グランプリ最優秀賞
- 黒木 真由美(デ3)宮崎県・延岡西高校出身
- 優秀賞
- 藤本 瞳(デ3)熊本県・南関高校出身
- 四代目賞
- 山下 久美(デ3)長崎県・創成館高校出身

世界に先駆けての分子機械開発をはじめ ナノテクノロジーの諸分野を牽引する 数々の研究によって未来に貢献



SHINKAI Laboratory

●分子機械の開発／分子機械とはその名の通り「分子そのものが機械として働くもの」のことです。分子機械は現在考え得る最小の機械であり、様々な分子機械を開発し、それらを組み合わせることで、例えば「血管の中を通過して、人体を内部から修復する機械」のような夢のような微小装置を生み出すことができるようになりますと期待されています。我々のグループは、世界に先駆けて分子機械を世に送り出し、今日でもこの研究分野をリードし続けています。

●人工ゲルの開発と応用／「ゲル」とは、その内部に豊富な液体を包み込んでいるにもかかわらず、そこから液体が漏れ出すことがなく、一見固体のように見える物体の総称で、身近にはこんにゃくやゼリーなどがあります。人体の約60～70%は水であり、我々人間もまたゲルの一種です。その性質を自在に制御できるゲルを開発することで、「人工軟骨」のような医療や工業に活用される有用な材料が開発されると期待されます。我々は、有益な機能を発揮する様々なゲルの開発を行っています。

●高機能性多糖薬剤の開発／数多くの糖が繋がった「多糖」は、自然界で大量に生産されています。このような自然界由来の物質は「バイオマス」と呼ばれ、環境にやさしく、人体に対して害が少ない極めて重要な資源として、その活用が期待されています。我々のグループでは、ある種の多糖が我々の遺伝子であるDNAに巻き付いて保護することを発見しました。この成果を活用して、癌治療や遺伝子療法などに広く応用できる薬剤の開発をめざしています。

新海征治教授の主な活動

- 日本化学会副会長や日本学術会議委員を兼任し、日本の化学の発展にも尽力しています。
- 学術論文発表は計20報におよび、国内外の有力な学会に招待されて数多くの講演を行っています。
- <これまでの主な受賞歴>
- 「Izatt-Christensen」国際賞(1998年)
- 日本化学会賞(2003年) ●西日本文化賞(2004年)
- 紫綬褒章(2004年) ●東レ科学技術賞(2006年) など



工学部
ナノサイエンス学科
新海研究室
●指導教員／新海征治 教授(工学博士)
●専門分野／機能性高分子
分子認識 分子機械

●我々のグループは世界にインパクトを与え、未来に貢献する研究成果を世に送り出すことを目標として日々活動しています。また、このような研究活動を通じて「未来の日本を支える人材の育成」をめざした積極的な教育も行っています。研究テーマは「ナノテクノロジー」や「ナノバイオテクノロジー」に関連する幅広い分野にまたがり、その成果はいずれもそれぞれの分野を牽引しています。以下にその一部を紹介します。

学生にきく



大学院 修士課程 応用化学専攻
2008年度2年次生
矢野 雅也さん
工学部 応用化学科(現・ナノサイエンス学科)
2006年度3月卒業
宮崎県 延岡青雲(前・延岡東) 高校出身

自身の研究テーマは？

●「糖をモジュールとする π 電子系分子の集積制御」が私の研究テーマ。これは電子デバイスのさらなる小型化につながる研究であり、技術革新の一端を担いたいと考えています。

研究室の雰囲気は？

●とても活発な研究室です。特に女子学生がパワフルで、あらゆる面で男子学生をリードしています(笑)。

新海教授はどんな先生？

●世界的権威とは思えないほどフレンドリーな先生で、学生がわからないことは常に気軽にご教授くださいます。同時に「世界をリードする化学者」の立場から、最先端の内容を明瞭かつ的確に指示されるので、研究はとてもスムーズに進みます。また研究設備などに関する配慮もきめ細かく、学生の意見もすぐに採用されるといったフレキシビリティも先生の特徴だと思います。

SARUWATARI Laboratory



工学部
宇宙航空システム工学科
猿渡研究室
●指導教員／猿渡 敬治 助教
●専門分野／航空エンジン設計

用途や任務などに合わせて研究 人力や電気モーターといった 小型航空機の推進システムの最適化を

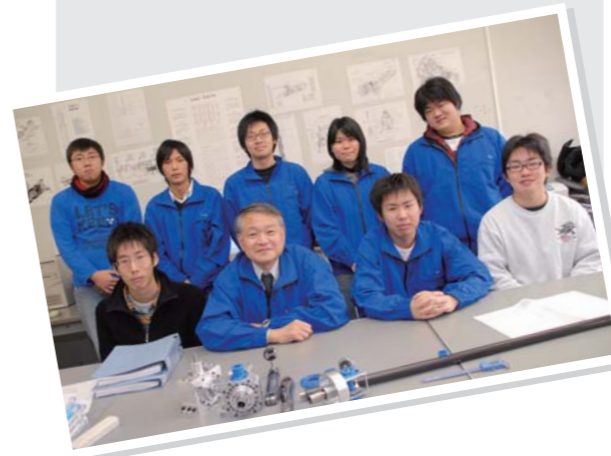
●当研究室のテーマは「小型航空機の推進システムの最適化」です。これは1人乗り程度迄の超小型航空機を想定、その推進システムとして考えられる人力や電気モーター(動力源は太陽電池など)、内燃機関が、用途や規模、航行距離、任務等にあわせて最も最適な組み合わせはなにかを研究するものです。

●現在、最も興味をもっているのは模型飛行機で急速に普及しつつある電気による航空機推進です。

●また、滋賀県・琵琶湖で行われる「鳥人間コンテスト」を意識した人力飛行機の駆動系、設計・製作にも取り組んでいます。ベースになっているのは前任の先生が指導されたものですが、さらなる軽量化や簡素化、取扱いの容易さを求めた改良を進めています。

猿渡敬治助教の主な活動

●本学に入職するまで勤務していた会社では航空エンジンの開発に従事していました。この経験を活かした人力飛行機駆動系の大膽なリファインを試行してきました。今後は「NASTRAN」を使用した構造解析やプラスチック歯車の耐久試験等に注力していきたいと考えています。



学生にきく



工学部 宇宙航空システム工学科
2008年度4年次生
楠本 翔 さん
佐賀県 嬉野高校出身

現在の研究テーマは？

●人力飛行機・駆動系の設計改良と製作に取り組んできました。駆動系は人力飛行機の心臓部であり、パイロットの力をプロペラへパーフェクトに伝達するにはどうすればよいか、軽量化を追究しながらの研究でした。

研究室の雰囲気は？

●メンバー間の関係はとてもフレンドリー。研究室の居心地もよく、製作も皆で明るく楽しく行ってきました。また肝心な作業が終わった週末などには小旅行に出かけたりして、メンバー間の友情を深めました。

猿渡助教はどんな先生？

●先生が研究されている「小型航空機の推進システムの最適化」は今後の航空機開発に多大な影響をおよぼすものであり、これらに関する指導が厳しいのは当然ながら、先生ご自身はとても優しい方です。研究や学業以外のことも数多く教えていただきました。それもあってか、先生というより「頼れる上司」という感じでもあります。



スリランカよりキンスリー先生が芸術学部にてショートステイ

芸術学部とキャラニヤ大学（スリランカ）の短期交流として2008年12月28日より2月8日まで、同大学の客員教授であるキンスリー・グナティラカ先生が滞在されました。先生は画家や素描家、彫刻家、イラストレーター、壁画修復家など、多彩な顔をもつ国際的アーティスト。芸術学部では実技の授業に積極的に参加され、彫刻の制作・指導や日本画の体験などの活動を通して、多くの学生と交流されました。また2月3日には先生ご自身のこれまでの制作

活動のプレゼンテーションが行われ、イギリスのテレビ局「BBC」が制作したドキュメント番組「The Tsunami Disaster in Sri Lanka 2004」や「Year Planner」などを観賞。学生との活発なディスカッションも行われ、スリランカの情勢や現代美術の状況が作品を通して紹介されました。

第5回 熊本地区「留学生シンポジウム」を開催

留学生に日ごろの日本語の学習の成果や、専門の勉強・研究について日本語で発表してもらおう熊本地区「留学生シンポジウム」が2008年12月20日に行われました。このシンポジウムは熊本留学生交流推進会議が毎年行っているもので今年で5回目。今回のシンポジウムは熊本県内の大学から12カ国24名の留学生が発表、国際交流に関心のある学生など約100名が参加しました。本学からは、大学院・芸術研究科のルワニ・ジャヤラテナさん（スリランカ出身）が「美しい国・スリランカ」と題して、母国スリランカの素晴らしさ、本学で学んでいること、たくさんの友人のことなどに関するスピーチを行いました。その後、シンポジウムに参加したたくさんの日本人学生や一般の方から質問をうけたり、活気あるシンポジウムとなりました。

※本学に在籍する留学生数は12月1日現在で131名。

voice

大勢の人々を前にしての日本語でのスピーチには勇気が必要でした

大学院 修士課程 美術専攻 1年次生
ルワニ・ジャヤラテナさん
スリランカ出身

●昨年4月に日本に来て約1年。当初はいさづ程度しか話せなかった日本語も今では日常会話なら大丈夫なレベルになりました。でも、様々な国の人が大勢集まった場所で発表をすることはとても勇気が必要でした。友人や先生方みんなが応援してくれたこと、母国スリランカのことを知ってもらいたい一心で発表に挑みました。現在は大学院で日本画と彫刻を勉強しています。スリランカと日本の美術を融合した作品をつくりたいですね。

ポーランド・ルブリン工科大学 ストリチェウスカ教授講演会



崇城大学とポーランド・ルブリン工科大学との大学間交流協定に基づきヘンリカ・ダヌータ・ストリチェウスカ教授が来学されました。ストリチェウスカ教授はポーランドでは数少ない女性Full-Professorの資格をもち、ポーランド科学アカデミーの会員でもあります。専門分野はプラズマ環境化学、超伝導応用工学。ポーランド国内に限らず、欧州、日本などで客員教授を務めた経験があります。本学では「Research on Applications of Plasma Technologies and Superconductivity in Power Engineering」のタイトルで学生・教職員対象に講演を行いました。講演の前半部分ではポーランドの大学生活や文化についての話題も多く、日本人にはなじみの薄い東欧圏の話に聴講者は興味津々でした。この講演会はプラズマ・核融合学会九州・沖縄・山口支部の協賛を受けており、九州各地からの研究者の参加もあり、学術講演会としても意義あるものとなりました。



漠然と芸術全般が好きという程度の中学生が高校の美術部の活動や大学でのショックの連続から挑むような気持ちで彫刻の道にはまり込み

高校時代 歌やダンスパフォーマンスなど全身全霊を込めて創作活動

●高校以前は漠然と芸術全般が好きという程度。芸術の選択科目は音楽でした。セザンヌやブラック、プラマンクのような色調が好きで、進んだ高校では美術部に入学。1年から3年まで、ひたすらデッサンや油絵を描いていました。どちらかといえば真面目でおとなしい人間と思われていたようですが、誰も見ていないところでは、歌やダンスのパフォーマンスをするなど、全身全霊を込めて創作活動をしていました。ちなみに地理の授業中は地図を見ながら空想の海外旅行。地学では宇宙と地球の神秘に酔い、物理は睡眠時間でした（笑）。

大学時代 今の自分を支えているのはこの頃のひたむきな創作

●画家志望であることを胸に秘めつつ1年次はダンス部でインカレ出場（!!）。その後は自分探しに悶々の日々。そんなある夜、不夜城のようなアトリエに吸い寄せられて彫刻室に行くと、門司出身の先輩の迫力に驚愕。与論出身の先輩の創作に唖然。パリの留学から帰ったばかりの師匠にカルチャーショック。怖いもの見たさに覗いた彫刻のアトリエは、ピュアな人々の集合体。空間に存在する立体の世界に魔力のような力を感じ、挑むような気持ちで彫刻の道にはまり込みました。



鹿児島大学・彫刻アトリエでの楠元教授。指示されなくても、中央の赤いボロシャツがご本人だとわかります（よね）。

鹿児島県立国分高校の美術部員だった頃の楠元教授。誰も見ていないところで歌やダンスのパフォーマンスをする少女だったとは……思えない雰囲気。



芸術学部 美術学科
大学院 芸術学部研究科
楠元香代子 教授

プロフィール ●1954年、鹿児島県国分市生まれの山羊座で血液型はB型。鹿児島県立国分高等学校から鹿児島大学に進み、東京芸文大学大学院・修士課程（彫刻専攻）を修了。鹿児島大学の非常勤講師や高校の美術教師、鹿児島女子短期大学の非常勤講師を経て2000年に本学へ。名古屋芸術大学客員講師やキャラニヤ大学（スリランカ）客員教授も兼務。専門は彫刻。

●それ以降は朝から夜中過ぎまで、正月以外は毎日アトリエにこもる暮らしが続きました。彫刻制作は生易しいものではありませんでしたが、大学時代のひたむきさが、今の自分を支えています。

現在 人物描写を目下の課題に究極のカオスを徹底追求

●人物描写が目下の課題。人間は究極のカオス。卑俗であると同時に高潔でもあり、得体が知れないから面白い。だからどんなに作っても作り足りない。今は粘土が表現の主な媒体ですが、将来もっとフィットする素材に出会うかも知れません。
●スリランカに関心をもったきっかけはスリランカの仏像との出会い。2006年にキャラニヤ大学の客員教授としてスリランカに滞在し、現在も遺跡に残る石像や石の造形物を作った工人たちの足跡を追っています。

学生へ 学業も就職も人間関係も人間力が育てば克服できる

●自分としっかり向き合うこと。自分の魂や人間力を磨き高めること。生きていることへの感謝と感動。自分の鼓動に耳を澄まし素直に生きること。朝起きて自分に水をやり、1日の始まりに感謝し活き活きと活動し、夜もまた感謝して眠る。そして自分がなすべきことから逃げず、夢をあきらめないこと。些細なことでも達成できたら自分を褒めて輝こう。学業も就職も人間関係も人間力が育てば克服できると信じています。

工学部・建築学科の村田泰孝助教が 空気調和衛生工学会で論文賞を受賞

去る2008年5月、空気調和・衛生工学会総会において、工学部・建築学科の村田泰孝助教が論文賞・学術論文部門の表彰を受けた。本論文は、室温より外気温が低い場合に外気を室内に入れることで冷房負荷を削減する方法の効果を簡易に見積るための方法について検討している。通常、外気を室内に取り入れて省エネルギーと室内環境の快適性を両立しようとする場合、その効果は実測やシミュレーションによる精緻な計算により評価する。但し建築物の詳細が決まっていない基本計画段階では、こういった計算による評価は難しく、外気を積極的に利用して省エネルギー対策とする設計を行う場合には今後、本論文のように簡易な評価手法は必要不可欠である。本論文の受賞は、この点が評価されたものである。



くまもと産業ビジネスフェアに出展

2月5日と6日の両日、グランメッセ熊本で開催された「くまもと産業ビジネスフェア」に工学部・機械工学科とエネルギーエレクトロニクス研究所が出展した。同ビジネスフェアは県内企業の商談会というメインの主旨だけでなく、産学連携による研究や人材育成の観点から、大学や高専ならびに工業高校と地域との交流もその目的の一つとしている。本学は熊本県庁が特別企画として用意した「次世代自動車エネルギーゾーン」に出展。研究としては機械工学科の



齊藤・内田研究室から「バイオエタノール使用のディーゼル型高効率エンジンシステムの開発」について、またEE研究所から「ハイブリッド車・燃料電池車に使われるエネルギーエレクトロニクスシステム」関連の最新研究成果を紹介した。さらに人材育成の観点から「学生フォーミュラプロジェクト」も紹介（第6回全日本大会への出場車両の展示を含む）。両日とも大変盛況だった。

ナノサイエンス研究交流講演会を開催



第1回「ナノサイエンス研究交流講演会」が2008年12月16日に、同第2回が2009年1月15日に開催された。この講演会は、平成20年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「超領域的フィードバックによる進化したナノサイエンス研究の拠点の設立（研究代表者は工学部・ナノサイエンス学科の新海征治教授）」の重要プログラムの一つであり、工学部・ナノサイエンス学科および大学院応用化学専攻における機能性ナノ材料開発研究を中心に、異なる専門分野の研究者と連携することで「これまで未踏の高機能性ナノ材料の創製とその実用化への展開」を推進し、「次世

代のナノテクノロジー・ナノバイオ分野に貢献する人材の育成」を担う研究拠点を構築することを目的としている。今後も学外の著名・気鋭なナノサイエンス研究者から、その研究に関する学術的内容とともに、研究に対する熱き思いに満ちた講演会を開催していく予定。

<第1回(2008年12月16日)講演内容(写真)>

- 講師/九州大学 未来化学創造センター 小江誠司 教授
- 題目/常温常圧で水素からの電子抽出

<第2回(2009年1月15日)講演内容>

- 講師/三菱化学株式会社 黒崎事業所 高倉剛 品質保証部長
- 題目/炭素繊維開発と工業化～炭素繊維事業を通して感じた「ものづくり」

文科省科研費新学術領域研究 「揺らぎが機能を定める生命分子の科学」がスタート

生物生命学部・応用生命科学科の上岡龍一教授が平成20～24年度の文科省科学研究費・新学術領域研究「揺らぎが機能を定める生命分子の科学（領域代表は京都大学寺嶋正秀教授）」に計画班・班長として参画。同研究の第1回公開シンポジウムが1月6日京都で開催され、研究概要が紹介された。上岡教授は計画班A03「揺らぎと機能」の班長として、自身の研究である「細胞膜及び人工膜の揺らぎが関与する制がん機能メカニズム」について講演すると同時に、計画班の目標と公募研究（2月頃）について説明した。会場には座りきれないほどの研究者が全国から集まり、新しい学術領域の立ち上げにつながる熱気のこもった議論がされた。また、この新学術領域研究の第2回公開シンポジウムは、海外の著名な研究者を招き3月16日と17日の両日、岡崎市で行われた。



詳細は「<http://kuchem.kyoto-u.ac.jp/hikari/yuragi/>」を参照。

生物生命学部・応用生命科学科の松本陽子教授が 熊日新聞の夕刊「きょうの発言」に毎週連載中

熊日日新聞・夕刊3面の「きょうの発言」は、熊本市現代美術館長の桜井武氏など、県内各界の著名人によって執筆されている。現在、応用生命科学科の松本陽子教授（化学工学会理事・男女共同参画委員会委員長）が毎週火曜日を担当、1月から様々な話題を提供している。これまでのテーマは1月6日が「ノーベル賞イヤーに思うこと」、同13日「留学が研究の糧に」、同20日「男女共々イキイキと」、同27日「生命はくぐむ地球」、2月3日「副作用のないがん治療薬」、同10日「男女共同参画の最新潮流」、同17日「がんは予防できるか」同24日「医食同源」3月3日「新薬の開発」。身近なテーマからの研究紹介や男女共同参画への提言など、その幅広い内容に寄せられる市民の注目も高く、評判となっている。



SOJO as it is

ものづくり教育の推進を目的に2006度から開催されている 「SOJOものづくりコンペディション2007」において 最優秀賞に選ばれた企画アイデアを実製作

●2007年度の企画アイデア部門の課題は「禁煙対策ならびに分煙を前提とした喫煙場所や方法へのアイデア」。最優秀賞を獲得した芸術学部・デザイン学科4年次生の坂本久くん（鹿児島県・尚志館高校出身）が企画・立案した「全面禁煙を達成するための分煙の徹底化～手作りの分煙空間～」が今回、デザイン学科3年次生（2008年度）の生活環境デザインコース「プロダクト・スペース総合実習」の一環で実製作された。



VOICE

芸術学部 デザイン学科 2008年度3年次生
小倉直也くん 長崎県 長崎工業高校出身（写真右）

ベンチを製作するのに、一番大変だったのは、設計の段階でした。ベースに前年の「ものづくりコンペ」の優秀作品の案を取り入れることは決めていました。そして、構造や材料については、自分たちのオリジナリティを出そうと、いろいろとアイデアを出したのですが、なかなかまとまりませんでした。植物を組み込むかどうかについても、最後まで迷いました。そして、最終的に植物の癒しをより身近に感じられるように本体とプランターの一体型の案にまとまりました。僕たちが行ったこの活動によって、喫煙所の雰囲気が前より良くなり、今後きれいに使われ続けると嬉しいです。



実製作に取り組んだ芸術学部 デザイン学科2008年度3年次生たち

- 池尻憲宏（福岡県・祐誠高校出身）
- 梅田友里恵（熊本県・湧心館高校出身）
- 小倉直也（長崎県・長崎工業高校出身）
- 高木健光（熊本県・文徳高校出身）
- 森田睦浩（熊本県・翔陽高校出身）
- 矢橋勇一（熊本県・牛深高校出身）
- 吉田周平（宮崎県・日南工業高校出身）

※敬称略

ミス&ミスター(イケメン)SOJOが 第40回井芹祭で決定!!

去る2008年11月22日から24日の3日間にわたって行われた第40回井芹祭。その中でひととき大きな盛り上がりを見せたのが本学初の「ミス・コンテスト」と「イケメン・コンテスト」。白熱する審査の結果、栄えある初代「ミス&ミスター(イケメン)SOJO」に輝いた二人を紹介しましょう。22日に行われた「ミスコンテスト」の主な内容はファッション対決や女の子クイズなど。自薦他薦の9人の出場者の中から選ばれたのは薬学部・薬学科2008年度4年次生の世良田真理さん。注目の「イケメンコンテスト」では、生物生命学部・応用生命科学科2008年度2年次生の杉山慎治くんが7人のイケメンたちの頂点に立ちました。



voice
●コンテストに出場したのは「優勝したら焼肉!!」という友人の誘いがきっかけ。エントリーを後悔したこともありましたが、優勝できて友人や両親が喜んでくれ、今はうれしさいっぱい。投票してくれた人たちに「感謝!!」です。

薬学部 薬学科4年次生
世良田真理さん
宮崎県 福島高校出身
memo
●星座は蟹座で血液型はA型。趣味は音楽鑑賞。現在のマイブームは美味しいスイーツの発見とカフェめぐり。学食のお勧めメニューは塩豚丼。



voice
●そんな気はまったくなかったのですが、世話になった友人の推薦を断れなくて出場してしまいました。それで初代の優勝者になって...光栄です(はずかしいなあ)。

生物生命学部 応用生命科学科2年次生
杉山慎治くん
山口県 高川学園高校出身
memo
●星座は魚座で血液型はA型。趣味は天体観測。現在のマイブームはヒミツ(飲み系)。学食のお勧めメニューは崇大ランチ。

芸術学部・美術学科「学生作品展」を 崇城ギャラリーで開催

2月3日から11日まで「崇城大学芸術学部美術学科学生作品展」が崇城大学ギャラリーで開催された。本展は今年度からの新たな試みであり、日本画・洋画・彫刻・芸術文化各コースの1～3年次生がこの1年間に実習等で行った制作や研究を通して、本学科の美術教育の内容を保護者や出身高校の先生をはじめ、熊本の人たちに広く紹介した。日本画・洋画・彫刻各コースは日頃実習で行っている課題や自由課題による作品を、芸術文化コースは自由課題による研究発表のパネル展示など、ヴァリエーションに富んだ作品・研究を展示した。今後も卒業・修了制作展だけでなく、学生の作品や研究などの活動を広く発信していく。



芸術学部・デザイン学科の学生が 「年賀状で熊本を送ろうキャンペーン」に多数入賞

2011年の九州新幹線全線開業に向け、2008年9月に熊本県観光物産総室が、熊本をもっと元気にする観光と物産品の「イラスト大募集」を行った。応募数177点の中から「熊本県観光審議会」において15作品が選ばれ、芸術学部・デザイン学科の2・3年次の学生8名が入賞。秀作4点は本学が独占した。なお作品は下記のように、絵ハガキとして使えるよう県の観光サイトに掲載されており、この夏まで利用することができる。



●優秀賞「阿蘇のあか牛」
2年次生 森野志織



●準優秀賞「細川じゃ。」
2年次生 有馬正裕



●準優秀賞「熊本の民芸品」
2年次生 吉井奈津美

<入賞者>

- 優秀賞「阿蘇のあか牛」2年次生/森野志織(熊本県・宇土高校出身)
- 準優秀賞「細川じゃ。」2年次生/有馬正裕(熊本県・熊本国府高校出身)
- 準優秀賞「熊本の民芸品」2年次生/吉井奈津美(熊本県・第二高校出身)
- 入賞「玉名・花しょうぶ」3年次生/黒木真由美(宮崎県・延岡西高校出身)
- 入賞「上益城・通潤橋」3年次生/山下久美(長崎県・創成館高校出身)
- 入賞「熊本城」2年次生/太原雄嗣(熊本県・御船高校出身)
- 入賞「阿蘇・草千里と赤牛」2年次生/梅田和(佐賀県・佐賀清和高校出身)
- 入賞「芦北・うたせ船」2年次生/都大輔(大分県・大分東高校出身)

※学年はすべて2008年度・全員が芸術学部・デザイン学科生
※敬称略

工学部・エコデザイン学科が 「フレッシュマンゼミナール」で炭焼き体験



工学部・エコデザイン学科1年次生を対象とする専門科目「フレッシュマンゼミナールⅡ」では「炭焼カーボンオフセットプロジェクト」と銘打ち、自らの体験を通して地球環境・自然環境を守る事の大切さを理解してもらうための授業計画となっている。水俣愛林館での森林体験、大学内での竹林の間引きやその後の竹林の生態系の観察、間引き材を用いた竹炭づくりなどを行い、この体験を通して、作業の工程管理や安全管理など技術者としての素養を養い、ものづくりや学科カリキュラムについて学ぶことの意味を十分理解していく。またゼミの集大成として、2008年12月6日には大学内の大型炭焼窯で竹炭を作った。さまざまな作業を通じた成果が形となったことで、学生たちも達成感と充実感を感じていたようだ。

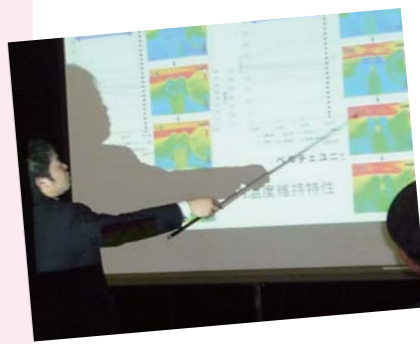


情報学部2008年度4年次生が 熊本産学官技術交流会で研究発表

「熊本産学官技術交流会」が2月5日益城町のグランメッセ熊本で行われ、情報学部2008年度4年次生の江上昇くん(熊本県・玉名高校出身)が「駐車中の車内を快適にする太陽電池クーラーの開発」について発表を行った。内容についてのコメントは次のとおり。

VOICE

車から排出されるCO₂は走行中のみならず、駐車中のアイドリングや真夏のカーエアコン運転中にも排出しており、それに伴って出される排気ガスは温暖化や酸性雨の原因となっています。開発中の冷却システムは、運転時にカーエアコンで冷やされた車内温度を、炎天下で駐車中にも維持できる冷却補助的な役割を果たします。今回は冷却装置にペルテユユニットを用いたシステムについて発表しました。



軟式野球部が全日本と西日本の 両選手権大会に連続出場



軟式野球部が2008年8月に富山で開催された第31回「全日本大学軟式野球選手権大会」、同11月に奈良で行われた第25回「西日本大学軟式野球選手権」の両大会に連続出場した。試合についてのコメントは次のとおり。

VOICE

主将/工学部・ナノサイエンス学科2008年度2年次生
田平英人くん(宮崎県・都城西高校出身)

全日本選手権では初戦の石川県立大を6対4で下し、二回戦で関西の雄・同志社大学と対戦しました。延長11回の1対0で惜敗しましたが終始緊張感のある良い試合でした。西日本選手権の初戦は常連校である中京学院大学と対戦。2対2の同点で迎えた9回裏、1アウト1・2塁の場面で相手のエラーによるサヨナラ勝ちを収めました。二回戦の相手は京都文教大学。両校無得点で迎えた延長14回の表、本学が2点を先制しましたが同裏に3点を返され、こちらも惜敗でした。この両大会を通して1点の重みというものを知ることができました。やはりどのチームもしっかりと練習を積んできているので、あとはどれだけ勝利への執念があるかだと思います。また、どんなに強いチームに対しても、チームワークと仲間を信頼し合えば打ち勝つことができるといふことも学ぶことができました。この経験を今後の練習にも活かしていきたいと思えます。

九州大学サッカーリーグ2部へ サッカー部が昇格

2008年12月21日に長崎県・島原市の多目的広場で第23回「九州大学サッカーリーグ入れ替え戦」が行われた。この大会は九州大学サッカーリーグ2部への昇格をかけた大会であり、2部11位と12位のチームに九州各県大学サッカーリーグ決勝大会1位と2位のチームが挑むスタイル。同2位の本学は2部11位の長崎大学と対戦。「1対0」で下し、来季からの2部リーグ昇格を決めた。今後の活躍が期待される。



平成20年度「機械設計技術者試験」3級に 6名の工学部・機械工学科生が合格

平成20年度「機械設計技術者試験」3級に、次の工学部・機械工学科2008年度3年次生6名が合格を果たした。

- 末吉克城(鹿児島県・出水高校出身)
- 亀田知都(熊本県・荒尾高校出身)
- 西山徹(熊本県・宇土高校出身)
- 松本泰明(熊本県・東稜高校出身)
- 古賀友章(福岡県・山門高校出身)
- 田中宏明(鹿児島県・国分高校出身)

※敬称略

Photo Scrap*

1.19~23
寒稽古



2.6
教養講座
修了式



2.3~17
卒研発表



2.18~19
合同企業説明会



2.6~28
(金曜・土曜)
山鹿灯籠浪漫・百華百彩



3.10
大学院修了式



3.16
卒業式



卒業生直撃 interview

誰からも“安心と信頼”が得られる設備構築ができる
アクセス系のプロフェッショナルエンジニアをめざして

株式会社NTTネオメイト 現場力向上推進部

●新村 日出海さん
2008年3月 情報学部 電子情報ネットワーク工学科 (2009年度より情報学科) 卒業 / 熊本県・水俣高校出身



現在の勤務先と主な仕事の内容を教えてください

●勤務先は株式会社NTTネオメイトの現場力向上推進部です。現在の仕事内容はアクセス系のプロフェッショナルエンジニアをめざして、直営工事を実施しています。具体的には、電柱を建てたり、光ケーブルを張ったり、インターネットが開通するまでの工程を行っています。

学生時代の思い出を教えてください

●第一級陸上無線技術士の資格取得を目標に日々勉強した結果、大学3年次に合格することができました。共に勉強してきた仲間との思い出は今でも強い印象として残っています。また、大学生生活で多くの友人と知り合うことができました (お酒の楽しみも知っちゃいました!!)。

大学時代に学んだことが今どのように生きていますか

●学業などを通して知った努力することの大切さは、現在行っているすべての業務に活かされています。これにより、大きな目標も成し遂げることが可能になってくると思います。

崇城大に学ぶ後輩たちへ
アドバイスやメッセージをお願いします

●大学時代にしかできないことに取り組み、なにごと諦めず一歩一歩懸命に頑張ってください。努力したことは必ず身につく、結果となってあらわれますから。

将来の夢を教えてください

●NTTのサービスをより多くお客様に使っていただき、誰からも“安心と信頼”が得られる設備構築ができる技術者になりたいです。

卒業生直撃 interview

研修会を開催して講師を務めたり
現場に出向いての技術指導などを担当

西日本システム建設株式会社 NTT本部 ホームソリューション推進部 NGN推進部

●高野 涼平さん
2004年3月 工学部 環境建設工学科 (現・エコデザイン学科) 卒業
2006年3月 大学院修士課程 建設システム開発工学専攻修了
※熊本大学 大学院博士後期課程 自然科学研究科 環境共生工学専攻在学中



現在の勤務先と主な仕事の内容を教えてください

●勤務先は西日本システム建設株式会社 (NTT本部ホームソリューション推進部) です。当社は電気通信設備建設業を行っており、電柱・携帯電話用等の鉄塔・地下マンホールなどの建設から、光ファイバーによる通信線等の敷設、電話やインターネットの開通工事を主な業務としています。私の仕事は電話・インターネット回線の開通に伴う、電話による技術サポート業務と、新技術・新工法の習得ならびに現場作業者の育成です。入社後1年間は研修期間が設けられましたが、2年目からは研修会を開催し講師を務めたり、大型の案件の場合は現場に出向いて技術指導等を行っています。新旧問わず様々な技術を習得して水平展開を図るのは大変ですが、やりがいをもって仕事できています。

学生時代の思い出を教えてください

●学部の4年間は夜間主 (2009年度より募集停止) でした。朝から建設会社で下水道工事等の現場で施工管理を行い、夕方5時には仕事を切り上げ、6時に間に合うように急いで大学に通っていました。仕事が忙しいときは土日休みなく、大学が終わってから書類作成等の残業をしに会社に戻るといった日々でしたが、今になって思うと多忙な分、貴重な休みの日は思いきり遊びに専念するなど、とても充実した学生生活だったと思います。

大学時代に学んだことが今どのように生きていますか

●研究ではテーマを設け、その問題点を解決するために実験の計画を立てて実施し、再び問題点を見つけ出して解決方法を探るといった作業の繰り返しでした。現場で発生する様々なトラブルに対処するためには経験や知識も必要ですが、大学時代の片山研究室で研究を通して身につけた発想力や問題解決能力が今の私の大きな財産となっていると思います。

崇城大に学ぶ後輩たちへ
アドバイスやメッセージをお願いします

●4年間の学生生活をついだらだらと過ごしてしまう人もいますが、勉強以外にも仕事や趣味やサークル等何でもよいのでぜひトライしてください。「俺にはできないんじゃないかな?」と思うことも度々あると思いますが、やらざるを得ない状況に身を置いてしまえば、どうにもなりません (しないといけなくなる!!)。ぜひ何事も果敢にチャレンジしていきましょう。

将来の夢を教えてください

●土木から電気・光通信、そしてネットワークに至るまで、「なんでも来い!!!」なオールラウンドな技術者になることです。

CLUBS' ACTIVITY



Djembe 部「DJAMANADIA」

代表 / 薬学部 薬学科2008年度3年次生
古賀 友香里さん
熊本県 第一高校出身

サークル名称「ジャマナディア」は
「世界に愛を届ける人々」という意味です

●私たち「Djembe部」は、週2日ジェンベを叩いたり、アフリカダンスを踊ったりして楽しく活動しています。Djembe (ジェンベ) とは、木をくりぬいてヤギの皮を張ったアフリカの太鼓のことで、手で叩いてリズムを刻みます。初めての人でもすぐ叩けるようになります。私たちは日々練習を重ね、地域のイベントや福祉施設、同窓会や文化祭など多くの人に楽しんでもらうために熊本県内のさまざまな場所で演奏しています。また、アフリカ人や講師によるワークを受けたり熊本大学や他のジェンベのチームとも交流があり、一緒にイベント出演したりしています。サークルという枠にはまるだけではない貴重な体験ができます。ちなみに、アフリカの有名な先生につけてもらったサークル名称「DJAMANADIA〜ジャマナディア」は、「世界に愛を届ける人々」という意味で、この名の通り私たちは音楽・楽器を通して人とのつながりを大切にしたいと思っています。これを読んで少しでも興味があった人は一度遊びに来てください。いつでも大歓迎です!!

昨年6月に鹿児島で行われた
九州インカレでベスト4に入りました

●私たちハンドボール部は、部員は少ないですが日々練習に励んでいます。練習は主に木曜日と土曜日に行っていますが、皆それぞれバイトや学業の関係で練習に全員が揃いにくく、満足に練習ができないこともあります。でもそういう時は、少ない練習時間や人数でどうすれば最も有効な練習ができるかを相談し、最適なメニューを考えて練習しています。昨年は引退されてしまった先輩方の力もありますが、6月に鹿児島で行われた九州インカレでベスト4という成績を残すこともできました。この春からは九州学生リーグにも出場予定であり、まずは4部からのスタートですが、3部、2部と勝ち上がっていくかは1部リーグで活躍できるようなチームにするのが部員みんなの目標です。



ハンドボール部

主将 / 工学部 建築学科2008年度2年次生
田上 英隆くん
熊本県 熊本国府高校出身

番外編

沖縄県人会「エイサー」

沖縄の伝統芸能エイサーを教えたり
イベントで踊ったりしています

●大学のクラブではありませんが、沖縄県人会「エイサー」は沖縄県出身者があつまって、沖縄の伝統芸能であるエイサーを教えたり、イベントで踊ったりしています。昨年の夏には、大学の地元にある池田小学校の4年生の先生が「運動会で子供たちとエイサーを踊りたいので教えてほしい」ということで来学されました。私たちとしては教えるというより、一緒に楽しくエイサーを踊った感じだったので、「おれに」と自分たちで育てた鉢植えをプレゼントしてくれ、とてもうれしかったです。

工学部 宇宙航空システム工学科2008年度3年次生
津波古 岩くん (写真右奥)
沖縄県 知念高校出身



私がこの本に出会ったのは、中学校の図書館でした。当時から私はスターウォーズなどのSFが好きで、名前だけは聞いたことがあった本書を軽い気持ちで読み始めたのですが、すぐに熱中してしまい、文字通り寝食を忘れて読みふけりました。

この「銀河英雄伝説」はSFではありませんが、政治、軍事、宗教など、現代の我々が抱える問題がリアルに描写されています。物語の軸は、自由惑星同盟と銀河帝国という2つの国家間の戦争になるのですが、「民主主義＝善」や「帝国＝悪」という単純な図式は成り立ちません。それぞれの体制にそれぞれの問題点を抱え、「どうにかしたいが、どうにもならない」という点、現代社会にも通じるところがあると思います。

主人公も同盟側にヤン・ウェンリー、帝国側にラインハルト・フォン・



田中芳樹 著
銀河英雄伝説

写真の一番は
徳間書店刊

中学校の図書館でふと出会い まさに寝食を忘れて読みふけた 自由惑星同盟と銀河帝国の争い

●情報学部 / 尾崎昭剛 助教

ローエングラムと両勢力に1人ずつ存在し、読者はそれぞれの思い入れのある方を応援しながら、読み進めることが可能です。物語の中盤では「腐敗した民主主義」と「清潔な専制政治」という対比になっていき、中学生時代の私は、政治体制について初めて真面目に考えた記憶があります。私は最近、古代ローマに関する本を読んでいるのですが、銀河英雄伝説の元ネタにな

っていると思われる事例が多々あり、ニヤリとすることがあります。しかし、歴史や政治に興味が無くとも、本書は純粋な物語としても面白く、特に中高生に薦められる名著であると思います。

心響の冊

This is my favorite book Series@04

紹介書籍は図書館でもクローズアップ!!

キリスト教会の調査で長崎の外海に行った折、遠藤周作文学館に立ち寄りまして。そこから見える外海の自然の切ないほどの美しさ。海に落ち込む緑深い山の斜面にしがみつくように建つ民家の群れと青く深い海。「神よ神よ、人間はこんなに哀しいのに海はあまりにも碧いのです」。遠藤周作の一文を思い出しました。たしか「沈黙」の中の一節だという記憶があったのですが、読み直してみ

弱さを抱えて生きる人間の哀しさ どこまでも沈黙する神が切ないまでに 美しい外海の風景に重なります

●工学部 建築学科 / 内丸恵一 講師

るとどうも違っていたようです。けれど外海地区が「沈黙」の舞台として想定されていたとのこと、よくわかります。遠藤周作は日本人の立場からキリスト教を求めた作家ですが、彼



遠藤周作 著
沈黙

写真の一番は
新潮社刊

が問題とした「キリスト教の日本的在り方」は、「沈黙」でも重要なテーマになっています。主人公の司祭ロドリゴが踏み絵を踏もうとするまさにその時、「踏むがいい。私はお前たちに踏まれるため、この世に生まれ、お前たちの痛みを分かたず十字架を背負ったのだ」という声を聞きます。「どうにもならぬ己の弱さに、衆生がすぎる私の慈悲、これを救いと日本では教えておる」。司祭を追い込んだ奉行のこの言葉が重なります。学生の時には文化論として読んでいたキリスト教の日本化の問題が、実は人間の宿業的な弱さとそこからの救われという、深い人間的な問題として取り組まれていることにあらためて気づかれます。弱さを抱えて生きる人間の哀しさどこまでも沈黙する神、それが、切ないまでに美しい外海の風景に重なります。

LOCAL AREA COOPERATION

地域との連携

「木山川水系水質調査」中間報告会を開催



2008年2月から12月まで合計12回の「木山川水系水質調査」を実施。12月19日に行った中間報告会では、主として9月までの調査データについて報告した(参加者は益城町役場職員・工学部エコデザイン学科およびナノサイエンス学科の教職員と学生など約50人)。アンモニウムイオンや大腸菌など13項目についての詳しい水質分析と流量観測がなされ、汚染の実態がほ



ぼ明らかになった。特に上流の布田川では、動物の排泄物がその汚染の主要因であることが明らかになった。また、下流の加勢川との合流点付近で汚染が増加しており、この汚染の原因究明も今後の大きな課題として浮彫りになり、3月に1年間の調査を報告書に取りまとめて益城町に渡すことになった。2009年度は河川の浄化のための基礎実験を実施する予定である。

崇城大学「専門学校」からのお知らせ

SOJO COLLEGE INFORMATION

就職活動に向けて就職セミナーを実施

就職活動対策の一環として1年生を対象に、崇城大学・就職課の濱口誠課長を招いた就職セミナー「就職本番直前講座」を実施しました。今の時代、最も求められているのはコミュニケーションスキルであり、入社試験において、どの会社でも必ず実施されているのが面接試験です。そこで今回は面接についての話を重点的におこなっていただきました。最初に就職活動状況の解説から始まり履歴書の書き方、自己PRの書き方、志望動機の書き方などの説明が行われ、学生たちは目前に迫った就職活動に役立てようと、全員が真剣な姿勢で講話に聞き入りました。一次面接から役員面接までの各段階での質問事項や注意事項などの確認もでき、学生たちは会社訪問時に着用するリクルートスーツを着ていたため、スーツの着こなし方やネクタイの色柄、靴下のチェックをはじめ、身だしなみの大切さも学習することができました。面接DVDの視聴も行い、自己紹介や志望動機のとめ方、話し方、事前準備の大切さ、面接の入室から退出時までのマナーや話し方等も学ぶことができました。今回は事前に自己PR文を考えておくようにと伝えてあったので、学生相互が向かい合い、自己PRをお互いに発表する実習、実演なども行うことができました。2月18日には、大学で行われた「崇城大学企業合同説明会」にも参加しました。



崇城大学 専門学校

〒860-0806 熊本市花畑町10番25号 TEL.096-323-1122
http://www.sojo-c.ac.jp/ info@sojo-c.ac.jp